

[3] 日南市小体連

I 年間事業

| 期 日 | 曜 | 事 業 名 | 主 な 内 容 | 会 場 |
|--------|---|--------------------|--------------------|----------|
| 5月10日 | 火 | 第1回理事会 | 水泳記録会実施計画案の検討 | 飫肥小学校 |
| 7月25日 | 月 | 第2回理事会 | 水泳記録会前日準備 | 北郷小中学校 |
| 7月26日 | 火 | 日南市水泳記録会 第3回理事会 | 水泳記録会 水泳記録会記録整理 | 北郷小中学校 |
| 8月22日 | 月 | 第4回理事会 | 陸上教室計画案検討 | 飫肥小学校 |
| 10月13日 | 木 | 第5回理事会 | 陸上教室名簿作成 | 飫肥小学校 |
| 10月24日 | 月 | 第6回理事会 | 陸上教室前日準備 | 日南総合運動公園 |
| 10月25日 | 火 | 日南市陸上教室 第7回理事会 | 陸上教室 記録整理 | 日南総合運動公園 |
| 11月24日 | 木 | 第8回理事会 | 陸上教室反省及び九州学体研報告 | 飫肥小学校 |
| 2月23日 | 木 | 第9回理事会 | 研究紀要作成 年間反省 次年度計画 | 飫肥小学校 |

II 事業部のあゆみ

1 水泳記録会

- (1) 大会名 日南市小学校水泳記録会
- (2) 実施日 平成28年7月26日(火)
- (3) 会場 日南市立北郷小中学校(2ブロック開催)

| | | |
|------|---------------------|---------------------------|
| 午前の部 | 第1ブロック 7校(20クラス) | 飫肥、酒谷、北郷、吾田、油津、桜ヶ丘、榎原 |
| 午後の部 | 第2ブロック 8校(17クラス) | 吾田東、鶉戸、細田、東郷、南郷、大堂津、潟上、大窪 |

- (4) 出場者 日南市内各小学校5・6年生代表児童(小規模校は4年生も可)
- (5) 実施種目
 - ・25m自由形
 - ・50m自由形
 - ・25m平泳ぎ
 - ・50m平泳ぎ
 - ・100mリレー
- (6) 競技方法
 - ・タイムレースとする
 - ・出場は一人2種目以内(ただし、リレーは除く)とする。リレーに出場する児童は最大3種目となる。
 - ・競技は原則として学年別、男女別とする。
 - ・リレーのチーム編成については、小規模校に限り、異学年、男女混合でも可とする。ただし混合チームは男子チームとして、異学年チームは上の学年で出場する。
 - ・その他細部については、日南市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

(7) 日程

| 【午前の部】 | | 【午後の部】 | |
|--------|---------|--------|-------------|
| 8:20 | ～ 8:30 | 受付 | |
| 8:40 | ～ 9:00 | 開会式 | |
| 9:10 | ～ 11:10 | 競技 | |
| 11:10 | ～ 11:30 | 閉会式 | |
| 11:30 | ～ | 休憩 | |
| | | 12:40 | ～ 12:50 受付 |
| | | 13:00 | ～ 13:20 開会式 |
| | | 13:30 | ～ 15:30 競技 |
| | | 15:30 | ～ 15:50 閉会式 |
| | | 15:50 | ～ 後片付け |

- (8) 表彰
 - 上位6位までを入賞とし、表彰する。
 - 参加児童すべてに記録証を渡す。
- (9) 反省

昨年度の反省を生かし、全役員が協力しながら大会運営に臨み実施することができた。

毎年の記録会会場が北郷小中学校になっている。プール管理を夏期休業中もしていただき大変感謝している。感謝の気持ちをもって今後の運営をしなければならない。

リレーについては、各学校でスタート時の姿勢の取り方や次泳者の待ち方で共通した指導を行うことができ、スムーズに競技を行うことができた。次年度もさらに全学校での指導の在り方の共通理解を図り、各学校での事前指導の徹底を行いたい。

児童の記録は、悪天候の水泳指導が続き十分な練習ができなかったが、各競技において県の標準記録の到達者や大会新記録が見られた。記録の伸びが見られたことにより、会場もとても盛り上がっていた。次年度は、更に各学校において競技力の向上に努める必要であると感じた。

今後も反省点を踏まえながら、改善策を取り入れ、より良い運営につなげられるようにしていきたい。

2 陸上大会

- (1) 大会名 第30回日南市小学校陸上教室
- (2) 期日 平成28年10月25日(火)
- (3) 会場 日南市立総合運動公園陸上競技場
- (4) 参加者 日南市内小学校6年生児童。学校規模により、5年生の参加を認める。ただし、リレーに参加する選手のトラック競技のみとする。
- (5) 種目
 - 一般種目
一般100m走
 - 選手種目
特選100m走 50mハードル走 走り高跳び 走り幅跳び
持久走(女子800m、男子1000m) ソフトボール投げ 400mリレー
- (6) 競技方法
 - 選手種目については、タイムレースとする。
 - 出場は、特選100m走と一般100m走は同一の種目と考え、その他1種目の出場を認める。つまり、1人が出場できるのは、100m走(一般or特選)+1種目(リレーは別)となる。
 - スパイクの使用は禁止する。
 - その他細部については、日南市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程

| | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 開会式 | 9:20 | 競技開始 | 10:00 |
| 競技終了 | 14:05 | 閉会式終了 | 14:40 |
- (8) 表彰
 - 選手種目内上位6位までを入賞とし表彰する。
 - 陸上教室参加児童すべてに記録証を渡す。
- (9) 反省

昨年度同様、パソコンデータでの選手名簿作成と大会記録の作成を行った。名簿作成の仕方でも理事会において共通理解を図ることができ、各学校から何度も資料を集め、時間をかけることなくスムーズな作成ができた。昨年度の反省をもとにさらに使いやすいパソコンデータシステムになっていた。大会中の記録もその都度パソコンに入力しまとめていったことで、記録の確認が容易にできた。そのため、全体的な運営もとても順調に進むことができた。

年度当初に、小体連として一括してバス会社に連絡し、時間や行程表を確認することで、移動代にかかっていた費用を大幅に削減することができた。待ち時間が長くなったり、学校到着時刻が遅くなったりすることを少しでも解消して次年度も継続したい。

係に関しては、競技中の係や模範走などで毎年同じ高校の陸上部の先生や生徒に協力をいただいている。しかし今後部員数の減少などにより、協力が難しくなってくる状況も考えられる。今までのように充実した運営を行っていく上で、新たな学校に協力していただく体制を考えていく必要が出てきた。

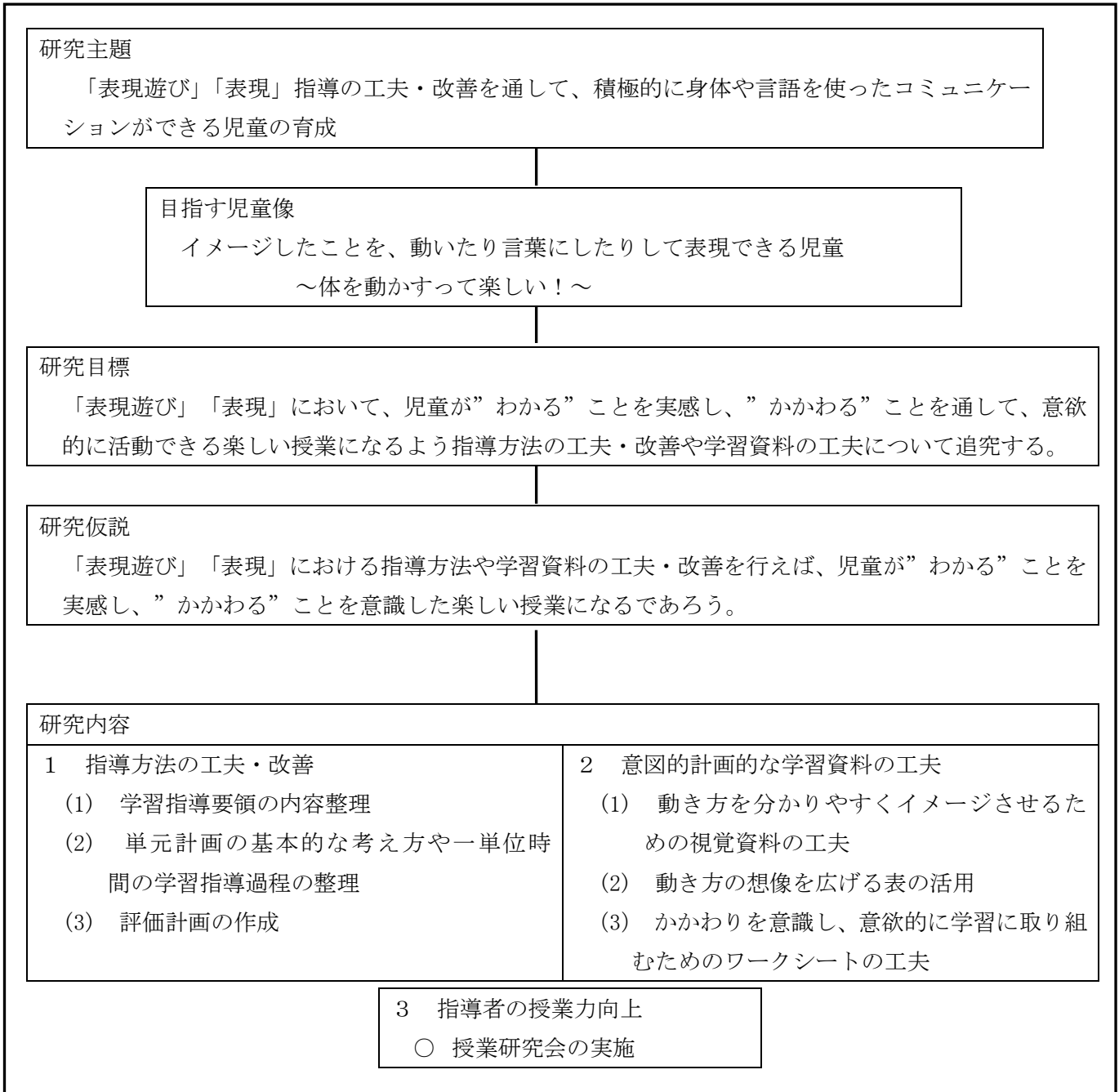
これらの反省をもとに、日南市の陸上教室のあり方をいろいろな方々に様々なアドバイスをいただきながら改善していきたい。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

「表現遊び」「表現」指導の工夫・改善を通して、積極的に身体や言語を使ったコミュニケーションができる児童の育成

2 研究の目的



3 研究の内容

(1) 指導方法の工夫・改善

- ① 学習指導要領の内容整理
- ② 単元計画の基本的な考え方や一単位時間の学習指導過程の整理
- ③ 評価計画の作成

(2) 意図的・計画的な学習資料の工夫

- ① 動き方をわかりやすくイメージさせるための視覚資料の活用
- ② 動き・動き方の想像を広げる表の活用
- ③ 児童がかかわりを意識し、意欲的に学習に取り組むためのワークシートの工夫

(3) 指導者の授業力向上

- ① 研修会の実施
 - 授業研究会の実施

4 研究の内容

(1) 意図的・計画的な学習資料の共有

昨年度県の学体研が行われ、表現運動を中心とした研究の概要説明、公開授業を行った。その際、中学年・高学年のつながりをもてる資料の作成を考えた。児童が表現したいと思えるようなカード、学年の段階に応じた動きや動き方がイメージできる資料、友達との表現のよさを認め合えるワークシートなどの作成を行った。それを本年度は、南那珂全体に広げられるように年度最初に共有を図った。今後も小体連を中心に表現運動の指導の仕方、楽しさを伝えていきたい。

(2) 授業研究会の実施

本年度11月に、高学年表現運動(单元名「大変だ!!」)の授業研究会を実施した。ブラックホールや火山噴火などのイメージを、即興で動きにしていく学習であった。子ども達が好きな音楽を選び、それに合わせてイメージした動きを一つの形に表現していく活動であった。また、ペアからグループへと気に入ったひと流れの動きにして練習・発表を行った。



本年度の県の研究テーマである“できる”を意識した学習を展開した。

単元の始めから、教師が時間性、空間性、運動性、関係性という4つのポイントを示し、本時まで児童へ意識させながら行ってきたことで楽しく活発に動く授業を行うことができた。児童に表現運動の約束やイメージした動きを掲示したりしてきたことで表現運動の土台作りができ、児童は心と体を開放してイメージを表現したり、友達の動きを称賛したりすることができた。授業後の事後研究会においても、参観者同士で多くの意見交流を行うことができた。今後の表現運動の指導につながるよい機会となった。

5 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 研究の方向性を定め、学習指導要領をもとに学習会を行うことによって、表現遊び等の授業イメージを小体連理事会の中で共有化することができた。
- 授業研究会を行ったことで、教師自身が表現運動の授業展開の仕方がイメージでき、指導方法の在り方について詳しく知ることができた。
- 視覚的資料を作成したことで、表現内容に広がりが見られ、表現運動に意欲的に取り組むことができた。
- 今後も本研究を南那珂地区に広げ、活用を進める必要がある。
- 今後もさらに”かかわる”から”できる”へつながる授業づくりを追究していく。

6 参考文献・資料

- 1 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社
- 2 国立教育政策研究所(2011)『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校体育)』(www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/09_sho_taiiku.pdf)
- 3 全国ダンス・表現運動授業研究会(2011)『明日からトライ!ダンスの授業』大修館書店
- 4 学校体育実技指導資料第9集『表現運動系及びダンス指導の手引』